

令和5年7-9月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは1.0ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和5年7-9月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和5年8月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,002社（50.1%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	351	63.8%
建設業	250	120	48.0%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	531	44.3%
合計	2,000	1,002	50.1%

2. 調査結果

（1）総合

	令和4年	令和5年				令和6年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲33.6	▲34.2	▲24.6	▲25.6	▲26.3	▲26.0
売上DI	▲13.3	▲22.5	▲8.7	▲14.1	—	—
採算DI	▲36.5	▲38.1	▲24.8	▲29.7	—	—

総合の業況DIは、前期比1.0ポイント低下の▲25.6となった。

経営状況では、売上DIは前期比5.4ポイント低下の▲14.1、また、採算DIは同4.9ポイント低下の▲29.7となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比0.7ポイント低下の▲26.3、半年後は同0.4ポイント低下の▲26.0を見込んでいます。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和4年	令和5年				令和6年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲27.6	▲30.7	▲28.7	▲27.1	▲23.3	▲19.5
売上DI	▲10.6	▲25.1	▲15.2	▲15.0	—	—
採算DI	▲38.7	▲39.5	▲28.1	▲27.6	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比1.6ポイント上昇の▲27.1となった。

経営状況では、売上DIは、前期比0.2ポイント上昇の▲15.0、採算DIは同0.5ポイント上昇の▲27.6となった。

「自動車関連のお客様の生産がコロナ前に戻って来ている。」「中国向け部品の低迷により、伸び悩み。」「仕入は高くなり、工場維持費等も値上がりしてきているが、売上金額は現状のままのものが多く状況。」「コロナ禍で需要が減少したまま戻る気配はない。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比3.8ポイント上昇の▲23.3、半年後は同7.6ポイント上昇の▲19.5を見込んでおり、「IT、DXに関する知識をもっとつけなければ、今後の経営に影響が出る。現場との人材の配分が難しい。人材育成が鍵である。」「半導体業界において在庫調整局面が終息しつつあり、オーダーが増えています。」「インバウンドが増えただけで、国内（日本人）需要は減少している。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和4年	令和5年				令和6年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
一般機械	▲20.0	▲25.6	▲31.4	▲25.6	▲21.1	▲13.3
電気機械	▲21.5	▲23.8	▲28.6	▲37.8	▲30.5	▲25.9
輸送用機械	▲38.6	▲37.7	▲25.9	▲14.5	▲22.2	▲18.5
その他	▲32.0	▲35.8	▲28.0	▲26.8	▲20.7	▲20.2

中分類で見ると、一般機械は前期比5.8ポイント上昇の▲25.6、電気機械は同9.2ポイント低下の▲37.8、輸送用機械は同11.4ポイント上昇の▲14.5となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比4.5ポイント上昇の▲21.1、電気機械が同7.3ポイント上昇の▲30.5、輸送用機械は同7.7ポイント低下の▲22.2、半年後は一般機械が同12.3ポイント上昇の▲13.3、電気機械が同11.9ポイント上昇の▲25.9、輸送用機械は同4.0ポイント低下の▲18.5を見込んでいる。

< 建設業 >

	令和4年	令和5年				令和6年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲19.7	▲6.2	▲6.6	▲8.3	▲12.7	▲16.9
売上DI	▲14.8	▲5.4	▲15.0	▲16.7	—	—
採算DI	▲31.1	▲25.9	▲21.8	▲19.2	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比1.7ポイント低下の▲8.3となった。

経営状況では、売上DIは前期比1.7ポイント低下の▲16.7、採算DIは同2.6ポイント上昇の▲19.2となった。

「同業他社の人手不足から弊社にも取引の少ないお客様から引合が増えている感じ。」「4月からの入札が取れなかった為、売上げが落ちた。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比4.4ポイント低下の▲12.7、半年後は同8.6ポイント低下の▲16.9を見込んでおり、「夏場は当社の閑散期にあたるため、繁忙期の秋は、好業績となる見込み。」「資材の値上げに受注単価が伴っていない。」といった声も聞かれた。

< 商業・サービス業 >

	令和4年	令和5年				令和6年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲40.8	▲42.5	▲26.0	▲28.4	▲31.4	▲32.5
売上DI	▲14.7	▲24.6	▲3.0	▲13.0	—	—
採算DI	▲36.3	▲39.8	▲23.3	▲33.5	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比2.4ポイント低下の▲28.4となった。

経営状況では、売上DIは前期比10.0ポイント低下の▲13.0、採算DIは同10.2ポイント低下の▲33.5となった。「仕入、販売共に高値安定から、弱含みへと変化しています。原因は、需要の減退によるものなので、先行きには不安があります。」「インボイス関連の準備に掛かる時間や費用が予想以上で大変。業務（人材不足にも関わらず）の谷間で行っていて、負担に辟易している。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比3.0ポイント低下の▲31.4、半年後は同4.1ポイント低下の▲32.5を見込んでいる。「7、8月の猛暑による客足の減少。コロナ禍による社会全体の不況。また物価高による購買意欲の減少。上向きの要素が何も見当たらない。」「これ以上仕入価格が上がるととても厳しい。利益が出ないですが、客数は確実に増えています。」「景気が悪い。今後の消費が伸び、設備投資に期待する。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和4年	令和5年				令和6年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
卸売業	▲31.7	▲45.6	▲23.3	▲26.1	▲31.2	▲34.6
小売業	▲47.4	▲45.7	▲35.9	▲40.8	▲43.9	▲41.0
飲食店	▲53.3	▲50.0	▲19.1	▲19.4	▲10.0	▲21.7
サービス業	▲30.3	▲31.3	▲15.2	▲14.3	▲21.2	▲22.1

業種別では、卸売業は前期比2.8ポイント低下の▲26.1、小売業は同4.9ポイント低下の▲40.8、飲食店は同0.3ポイント低下の▲19.4、サービス業は同0.9ポイント上昇の▲14.3となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比5.1ポイント低下の▲31.2、小売業は同3.1ポイント低下の▲43.9、飲食店は同9.4ポイント上昇の▲10.0、サービス業は同6.9ポイント低下の▲21.2、半年後では卸売業が同8.5ポイント低下の▲34.6、小売業は同0.2ポイント低下の▲41.0、飲食店は同2.3ポイント低下の▲21.7、サービス業は同7.8ポイント低下の▲22.1を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和4年	令和5年				令和6年
		10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
中規模	業況DI	▲27.6	▲29.3	▲18.8	▲21.1	▲22.0	▲20.1
	売上DI	▲3.7	▲14.9	▲5.2	▲8.3	—	—
	採算DI	▲33.6	▲34.6	▲25.2	▲28.7	—	—
小規模	業況DI	▲40.4	▲40.0	▲31.4	▲30.9	▲31.5	▲33.3
	売上DI	▲24.1	▲31.7	▲12.9	▲21.2	—	—
	採算DI	▲39.7	▲42.3	▲24.3	▲31.0	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比2.3ポイント低下の▲21.1、小規模企業は同0.5ポイント上昇の▲30.9となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比3.1ポイント低下の▲8.3、採算DIが同3.5ポイント低下の▲28.7、小規模企業は売上DIが同8.3ポイント低下の▲21.2、採算DIが同6.7ポイント低下の▲31.0となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比0.9ポイント低下の▲22.0、半年後が同1ポイント上昇の▲20.1、小規模企業は3か月後が同0.6ポイント低下の▲31.5、半年後が同2.4ポイント低下の▲33.3を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和4年	令和5年				令和6年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
横浜	▲39.0	▲33.9	▲25.8	▲33.6	▲33.1	▲31.6
川崎	▲33.1	▲30.1	▲29.3	▲27.4	▲28.1	▲25.8
横須賀	▲36.2	▲39.6	▲20.2	▲16.2	▲25.3	▲31.6
平塚	▲33.9	▲39.4	▲36.4	▲27.7	▲30.3	▲29.3
藤沢	▲20.0	▲29.3	▲9.6	▲11.9	▲15.2	▲17.3
相模原	▲26.6	▲42.6	▲24.2	▲25.8	▲30.4	▲26.1
厚木	▲33.3	▲25.0	▲22.1	▲25.2	▲15.2	▲19.2
足柄上・西湘	▲38.2	▲35.0	▲25.5	▲23.4	▲22.6	▲19.0

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比7.8ポイント低下の▲33.6）、川崎地区（同1.9ポイント上昇の▲27.4）、横須賀地区（同4.0ポイント上昇の▲16.2）、平塚地区（同8.7ポイント上昇の▲27.7）、藤沢地区（同2.3ポイント低下の▲11.9）、相模原地区（同1.6ポイント低下の▲25.8）、厚木地区（同3.1ポイント低下の▲25.2）、足柄上・西湘地区（同2.1ポイント上昇の▲23.4）となり4地区で上昇し、4地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比0.5ポイント上昇の▲33.1）、川崎地区（同0.7ポイント低下の▲28.1）、横須賀地区（同9.1ポイント低下の▲25.3）、平塚地区（同2.6ポイント低下の▲30.3）、藤沢地区（同3.3ポイント低下の▲15.2）、相模原地区（同4.6ポイント低下の▲30.4）、厚木地区（同10.0ポイント上昇の▲15.2）、足柄上・西湘地区（同0.8ポイント上昇の▲22.6）となり3地区で上昇し、5地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比2.0ポイント上昇の▲31.6）、川崎地区（同1.6ポイント上昇の▲25.8）、横須賀地区（同15.4ポイント低下の▲31.6）、平塚地区（同1.6ポイント低下の▲29.3）、藤沢地区（同5.4ポイント低下の▲17.3）、相模原地区（同0.3ポイント低下の▲26.1）、厚木地区（同6.0ポイント上昇の▲19.2）、足柄上・西湘地区（同4.4ポイント上昇の▲19.0）となり4地区で上昇し、4地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 企画広報課 木村

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和5年7月～9月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		351	120	112	223	63	133	531	1,002
業況判断	現在の業況	▲27.1	▲8.3	▲26.1	▲40.8	▲19.4	▲14.3	▲28.4	▲25.6
	3ヶ月後の業況	▲23.3	▲12.7	▲31.2	▲43.9	▲10.0	▲21.2	▲31.4	▲26.3
	半年後の業況	▲19.5	▲16.9	▲34.6	▲41.0	▲21.7	▲22.1	▲32.5	▲26.0
経営状況	売上	▲15.0	▲16.7	▲13.4	▲23.4	11.1	▲6.8	▲13.0	▲14.1
	採算	▲27.6	▲19.2	▲34.8	▲39.4	▲25.4	▲26.3	▲33.5	▲29.7
	引き合い/客数	▲14.7	▲0.8	▲8.9	▲41.4	▲1.6	▲8.3	▲21.5	▲16.6
	単価	11.2	9.2	7.2	▲13.6	8.1	▲6.1	▲4.8	2.4
	仕入価格	▲68.1	▲74.2	▲78.4	▲78.1	▲90.5	▲65.6	▲76.6	▲73.4
	資金繰り	▲27.6	▲12.5	▲20.5	▲33.6	▲33.9	▲22.0	▲27.9	▲26.0
	残業	▲16.7	▲2.5	▲14.5	▲14.4	▲10.0	▲9.1	▲12.6	▲12.8
	設備稼働	▲17.1	▲4.3	—	—	—	—	—	▲13.8
前期経営実績	売上水準	▲18.5	▲6.7	▲24.1	▲29.1	▲7.9	▲13.6	▲21.6	▲18.7
	利益水準	▲2.6	0.8	▲9.8	▲23.1	▲12.7	4.5	▲12.1	▲7.3
	在庫	9.9	▲1.9	16.4	0.9	▲1.6	▲10.4	1.4	4.0
	投資	▲8.6	▲3.5	▲12.0	▲19.5	▲4.8	▲3.3	▲12.2	▲9.9
	雇用状況	▲21.5	▲50.9	▲13.6	▲22.4	▲45.9	▲35.1	▲26.6	▲27.7

参考<前回調査> 景気動向調査 (令和5年4月～6月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		349	121	103	226	68	134	531	1,001
業況判断	現在の業況	▲28.7	▲6.6	▲23.3	▲35.9	▲19.1	▲15.2	▲26.0	▲24.6
	3ヶ月後の業況	▲29.5	▲11.2	▲29.0	▲42.9	▲9.0	▲18.9	▲29.7	▲27.4
	半年後の業況	▲22.6	▲16.4	▲34.3	▲39.2	▲4.5	▲22.0	▲29.4	▲25.5
経営状況	売上	▲15.2	▲15.0	▲1.0	▲15.9	38.2	▲3.8	▲3.0	▲8.7
	採算	▲28.1	▲21.8	▲24.5	▲28.8	▲16.2	▲16.8	▲23.3	▲24.8
	引き合い/客数	▲16.8	▲11.0	▲12.9	▲30.8	20.6	▲7.6	▲14.9	▲15.1
	単価	14.4	2.6	5.9	▲19.6	7.4	0.8	▲6.1	2.1
	仕入価格	▲76.4	▲69.0	▲83.2	▲75.4	▲83.8	▲61.9	▲74.8	▲74.6
	資金繰り	▲23.8	▲7.7	▲19.6	▲30.5	▲20.6	▲13.1	▲22.8	▲21.4
	残業	▲22.1	▲17.2	▲17.8	▲14.4	▲7.5	▲10.9	▲13.3	▲16.9
	設備稼働	▲21.3	▲9.1	—	—	—	—	—	▲18.3
前期経営実績	売上水準	▲17.2	▲1.7	▲12.6	▲32.7	▲7.4	▲17.3	▲21.7	▲17.7
	利益水準	▲3.5	16.7	3.9	▲22.4	▲13.2	▲5.3	▲11.8	▲5.4
	在庫	10.8	▲7.1	13.3	4.4	2.9	▲13.2	1.8	3.9
	投資	▲6.4	▲4.4	▲13.1	▲14.0	▲16.7	▲1.6	▲11.2	▲8.7
	雇用状況	▲17.6	▲47.9	▲15.3	▲21.3	▲44.1	▲33.6	▲26.3	▲25.8

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		183	168	61	59	303	228	547	455
業況判断	現在の業況	▲24.0	▲30.5	▲4.9	▲11.9	▲22.7	▲36.2	▲21.1	▲30.9
	3ヶ月後の業況	▲20.9	▲26.1	▲1.7	▲23.7	▲26.7	▲37.8	▲22.0	▲31.5
	半年後の業況	▲15.5	▲23.9	▲8.5	▲25.4	▲25.3	▲42.4	▲20.1	▲33.3
経営状況	売上	▲10.2	▲20.2	▲14.8	▲18.6	▲5.9	▲22.5	▲8.3	▲21.2
	採算	▲29.9	▲25.2	▲19.7	▲18.6	▲29.7	▲38.5	▲28.7	▲31.0
	引き合い/客数	▲11.9	▲17.7	4.9	▲6.8	▲13.9	▲31.8	▲11.1	▲23.3
	単価	17.5	4.3	8.2	10.2	2.7	▲14.7	8.2	▲4.5
	仕入価格	▲68.2	▲68.1	▲73.8	▲74.6	▲73.2	▲81.2	▲71.6	▲75.5
	資金繰り	▲22.6	▲33.1	▲4.9	▲20.3	▲23.3	▲34.2	▲21.0	▲32.0
	残業	▲18.6	▲14.6	1.6	▲6.8	▲9.7	▲16.6	▲11.3	▲14.5
	設備稼働	▲13.1	▲21.3	0.0	▲8.9	—	—	▲9.7	▲18.2
前期経営実績	売上水準	▲15.3	▲22.0	▲1.6	▲11.9	▲12.5	▲33.9	▲12.2	▲26.6
	利益水準	3.4	▲9.2	8.2	▲6.8	▲2.3	▲25.2	0.7	▲17.0
	在庫	12.1	7.5	▲1.7	▲2.0	2.8	▲0.5	5.4	2.3
	投資	▲5.1	▲12.4	1.6	▲9.3	▲7.9	▲18.0	▲5.9	▲14.8
	雇用状況	▲26.0	▲16.7	▲63.3	▲37.5	▲34.1	▲16.1	▲34.7	▲19.1

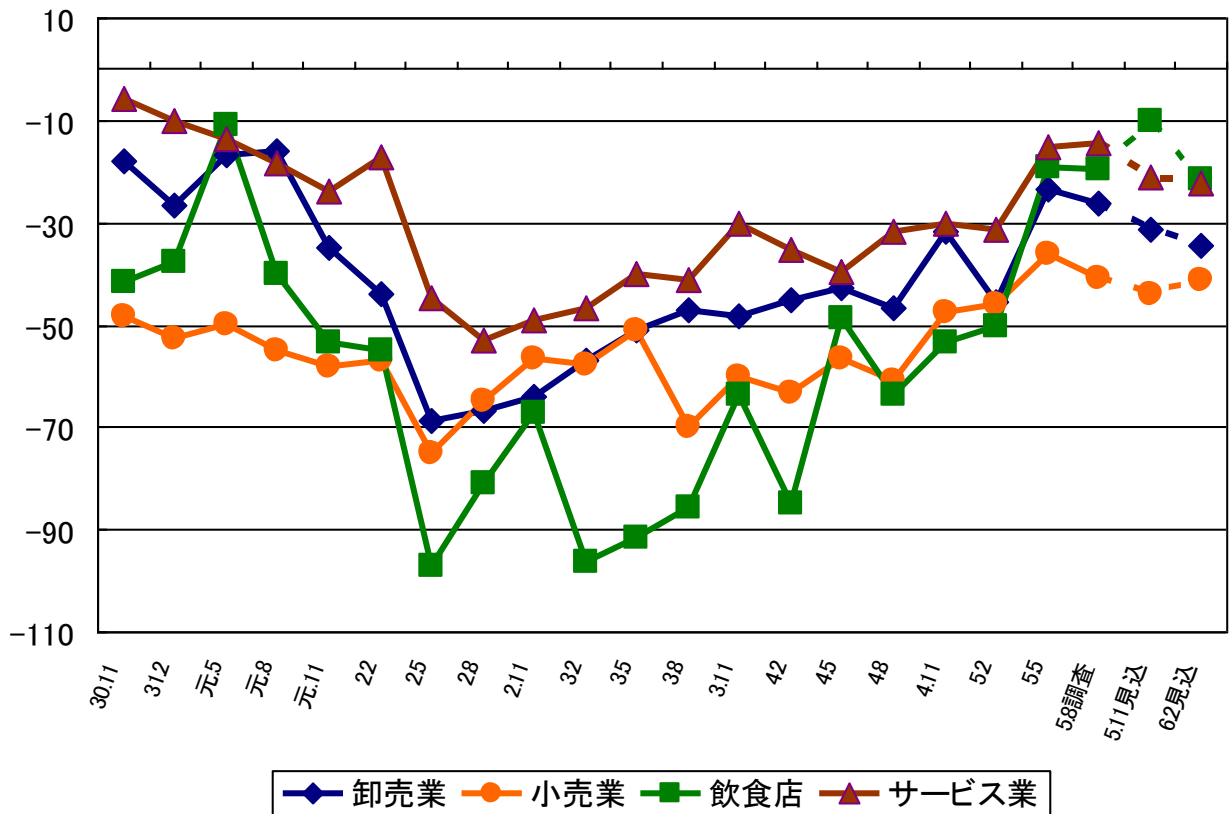
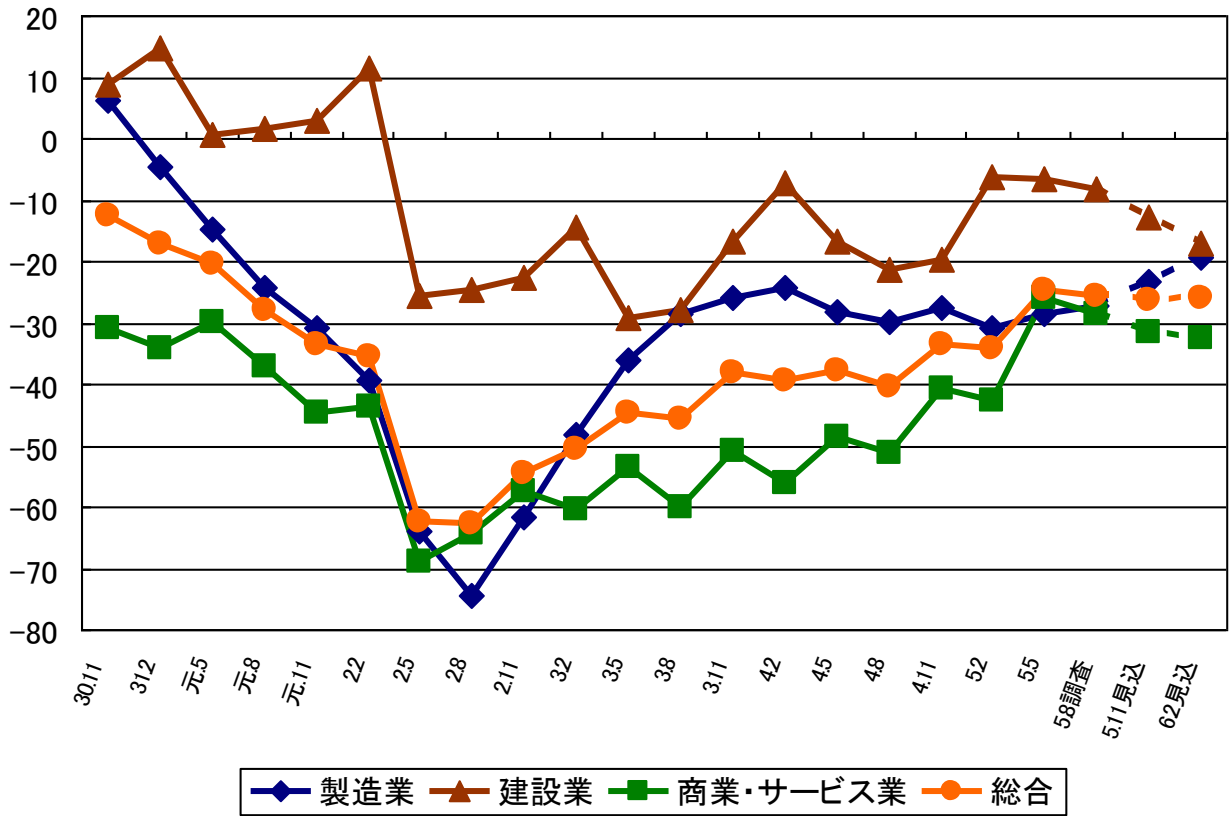
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		265	125	101	103	101	93	107	107	1,002
業況判断	現在の業況	▲33.6	▲27.4	▲16.2	▲27.7	▲11.9	▲25.8	▲25.2	▲23.4	▲25.6
	3ヶ月後の業況	▲33.1	▲28.1	▲25.3	▲30.3	▲15.2	▲30.4	▲15.2	▲22.6	▲26.3
	半年後の業況	▲31.6	▲25.8	▲31.6	▲29.3	▲17.3	▲26.1	▲19.2	▲19.0	▲26.0
経営状況	売上	▲20.5	▲23.0	▲14.0	▲6.9	▲8.2	▲9.7	▲21.0	1.9	▲14.1
	採算	▲30.4	▲43.0	▲27.0	▲29.4	▲19.2	▲32.3	▲35.2	▲17.9	▲29.7
	引き合い/客数	▲16.4	▲18.9	▲17.2	▲19.8	▲13.3	▲23.7	▲6.7	▲17.9	▲16.6
	単価	▲0.8	0.0	▲1.0	▲2.0	13.1	1.1	2.9	11.3	2.4
	仕入価格	▲70.1	▲75.0	▲76.5	▲77.2	▲75.8	▲71.4	▲66.3	▲79.2	▲73.4
	資金繰り	▲26.0	▲24.0	▲26.3	▲27.7	▲16.2	▲32.3	▲23.8	▲32.1	▲26.0
	残業	▲16.7	▲9.1	▲11.2	▲7.9	▲16.3	▲9.8	▲19.0	▲6.7	▲12.8
	設備稼働	▲8.7	▲11.5	▲10.5	▲21.3	▲17.8	▲12.8	▲20.3	▲13.3	▲13.8
前期経営実績	売上水準	▲24.4	▲21.3	▲11.0	▲27.5	▲11.1	▲9.7	▲21.2	▲13.3	▲18.7
	利益水準	▲14.1	▲0.8	1.0	▲13.7	▲5.1	▲5.4	1.0	▲11.3	▲7.3
	在庫	1.6	8.4	3.1	3.1	4.3	6.7	0.0	7.8	4.0
	投資	▲16.9	▲5.0	▲9.2	▲10.3	▲6.1	▲9.0	▲8.7	▲4.7	▲9.9
	雇用状況	▲28.0	▲32.8	▲33.7	▲29.0	▲27.8	▲20.9	▲26.7	▲21.2	▲27.7

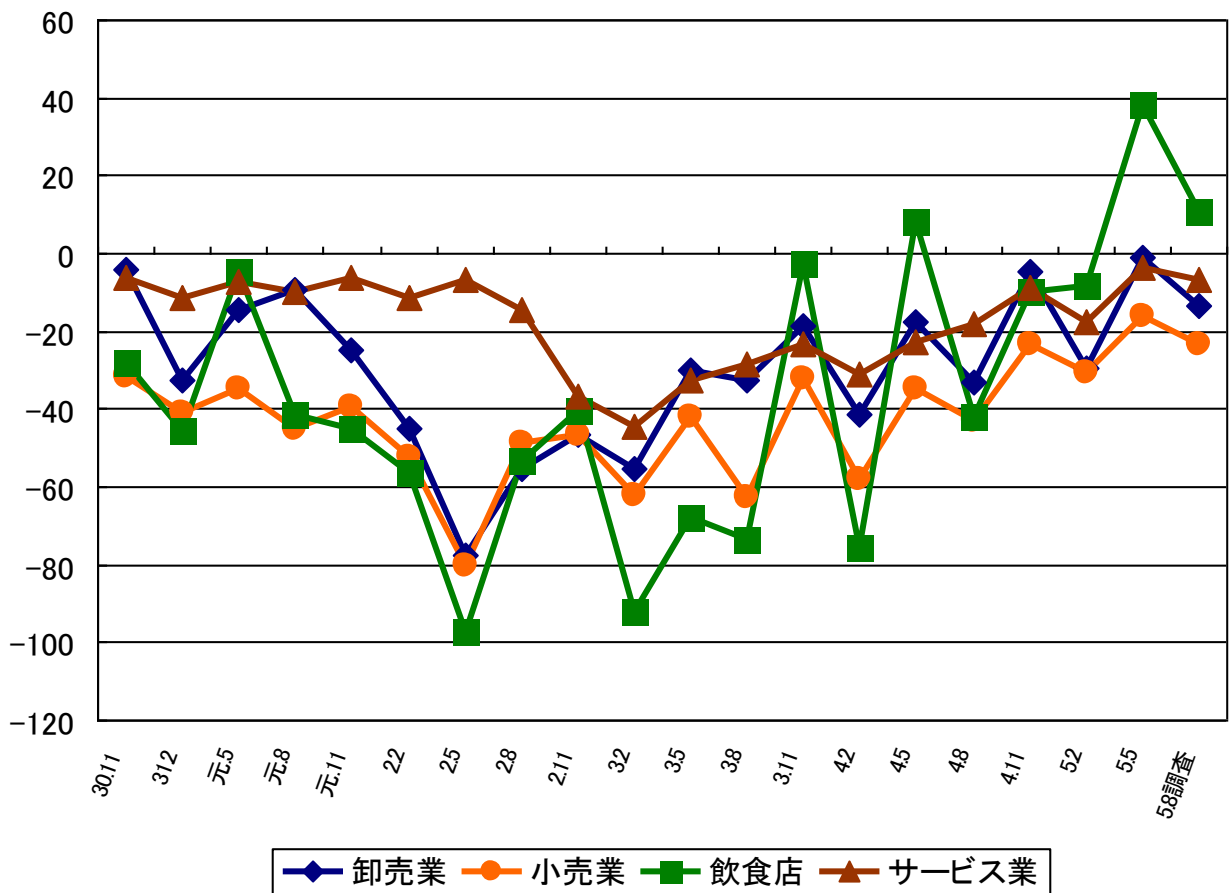
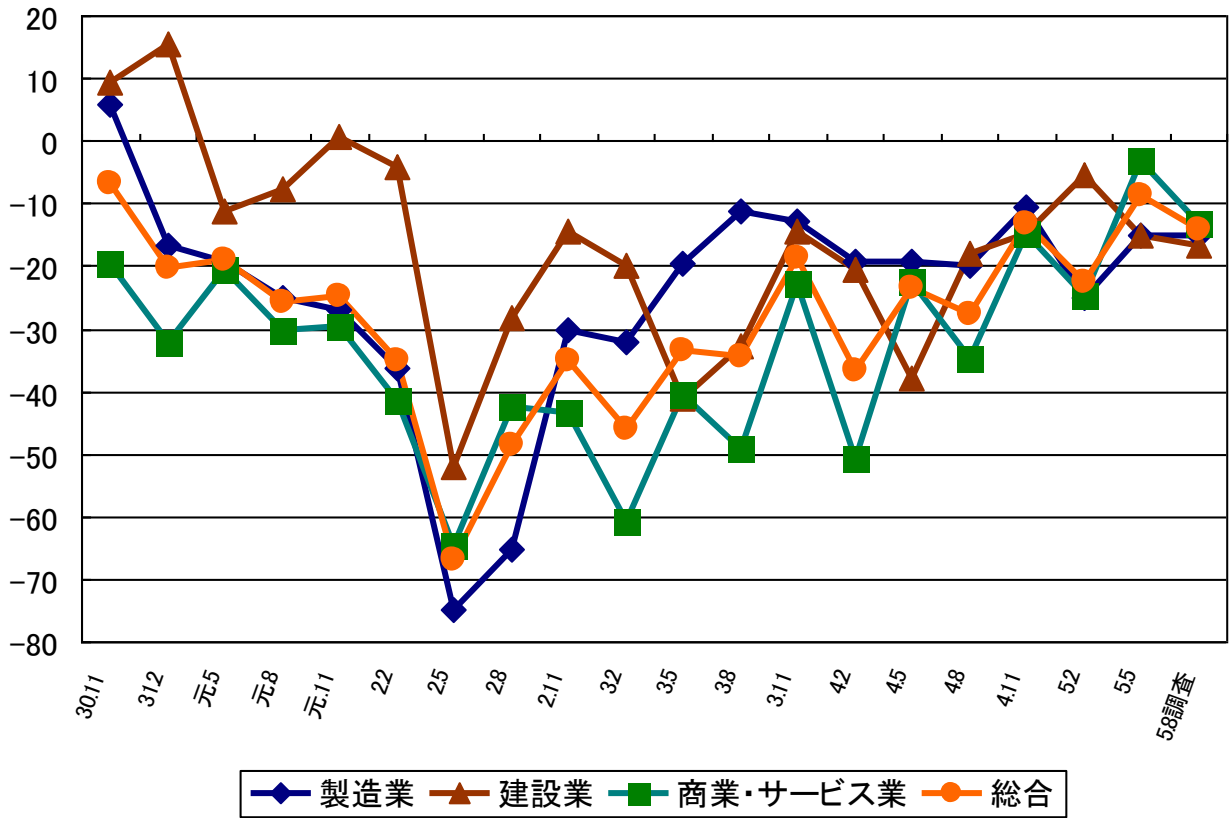
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		90	82	55	124	351
業況判断	現在の業況	▲25.6	▲37.8	▲14.5	▲26.8	▲27.1
	3ヶ月後の業況	▲21.1	▲30.5	▲22.2	▲20.7	▲23.3
	半年後の業況	▲13.3	▲25.9	▲18.5	▲20.2	▲19.5
経営状況	売上	▲17.2	▲22.8	0.0	▲15.1	▲15.0
	採算	▲21.8	▲26.6	▲30.9	▲31.1	▲27.6
	引き合い/客数	▲14.9	▲22.8	▲14.5	▲9.2	▲14.7
	単価	3.4	7.6	14.5	17.6	11.2
	仕入価格	▲77.0	▲70.1	▲52.7	▲67.5	▲68.1
	資金繰り	▲26.4	▲27.8	▲29.1	▲27.7	▲27.6
	残業	▲14.9	▲16.5	▲7.3	▲22.5	▲16.7
	設備稼働	▲13.8	▲17.9	▲9.1	▲22.5	▲17.1
前期経営実績	売上水準	▲14.9	▲23.1	▲10.9	▲21.7	▲18.5
	利益水準	4.6	0.0	▲1.9	▲10.0	▲2.6
	在庫	7.0	10.3	7.8	12.6	9.9
	投資	▲4.6	▲13.0	▲7.4	▲9.2	▲8.6
	雇用状況	▲35.6	▲17.9	▲20.4	▲14.2	▲21.5

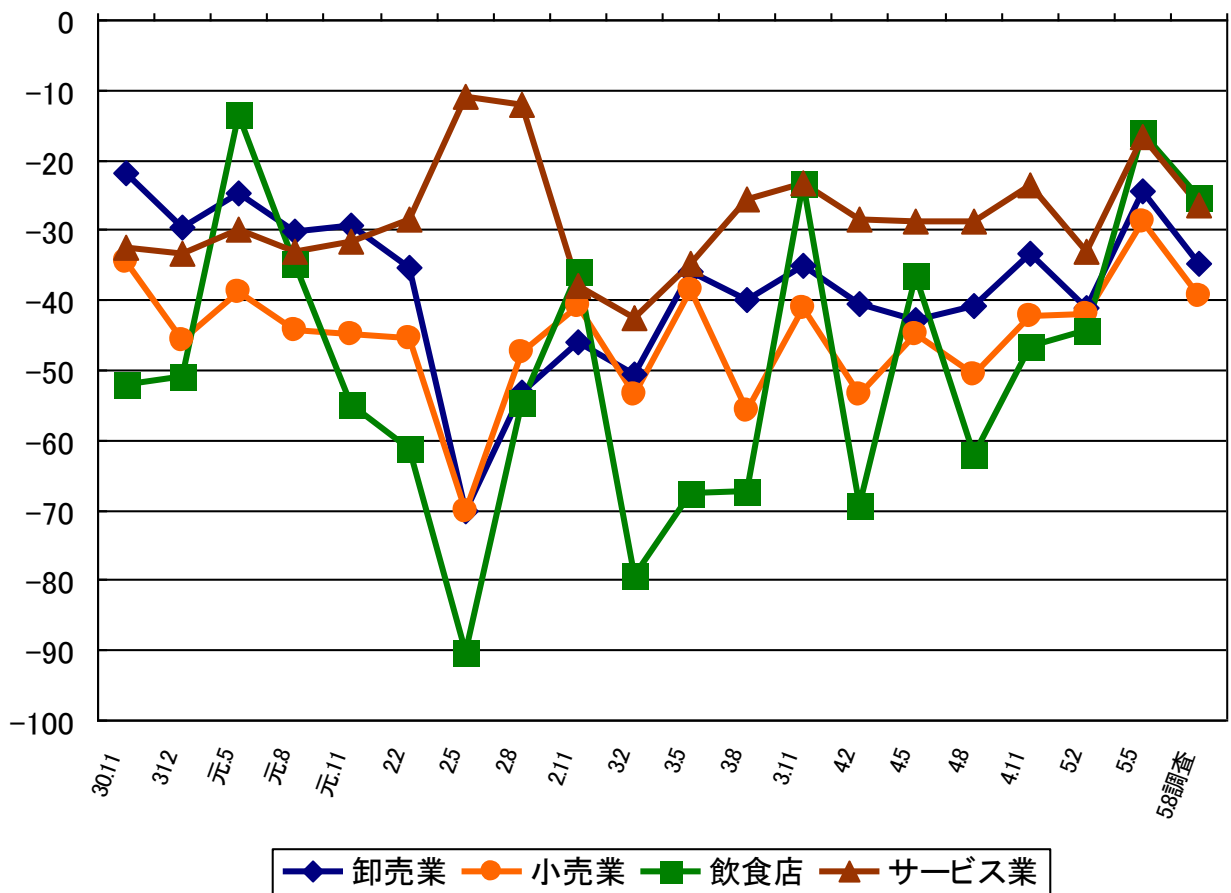
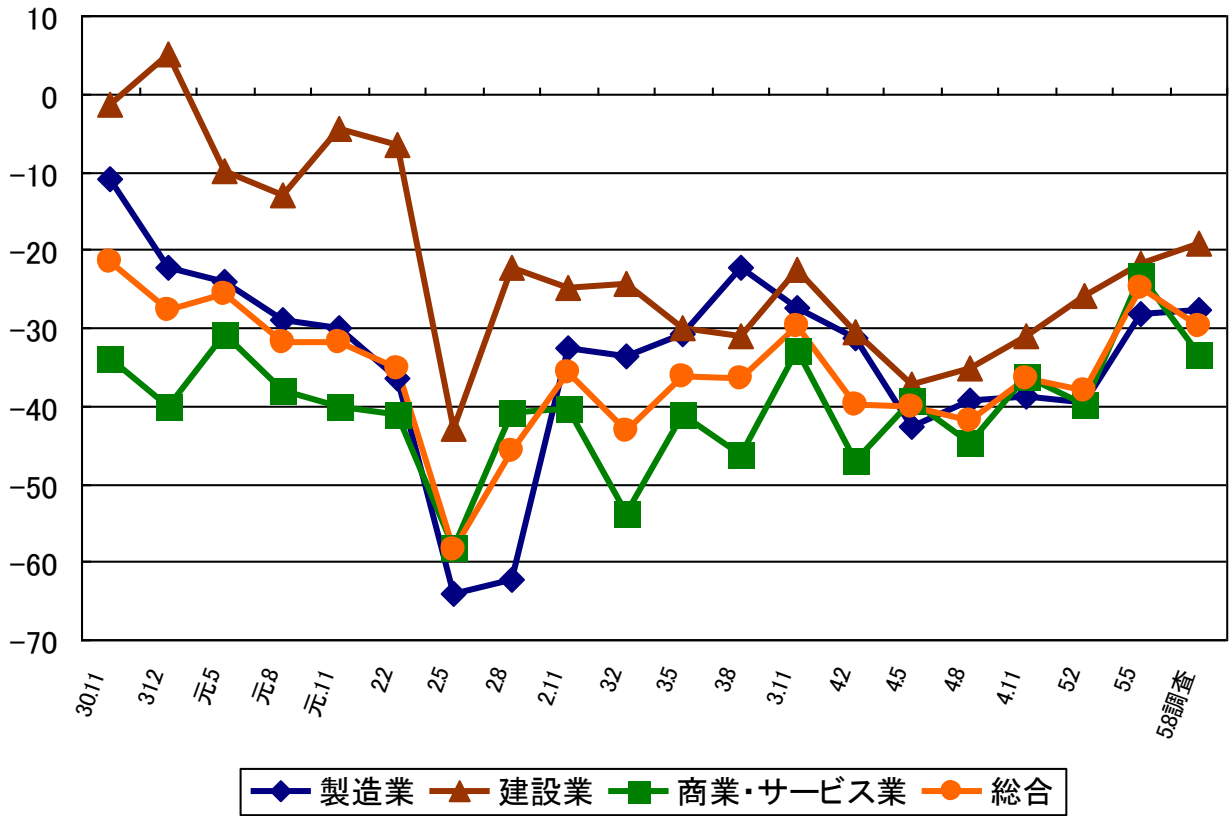
業況DIの推移



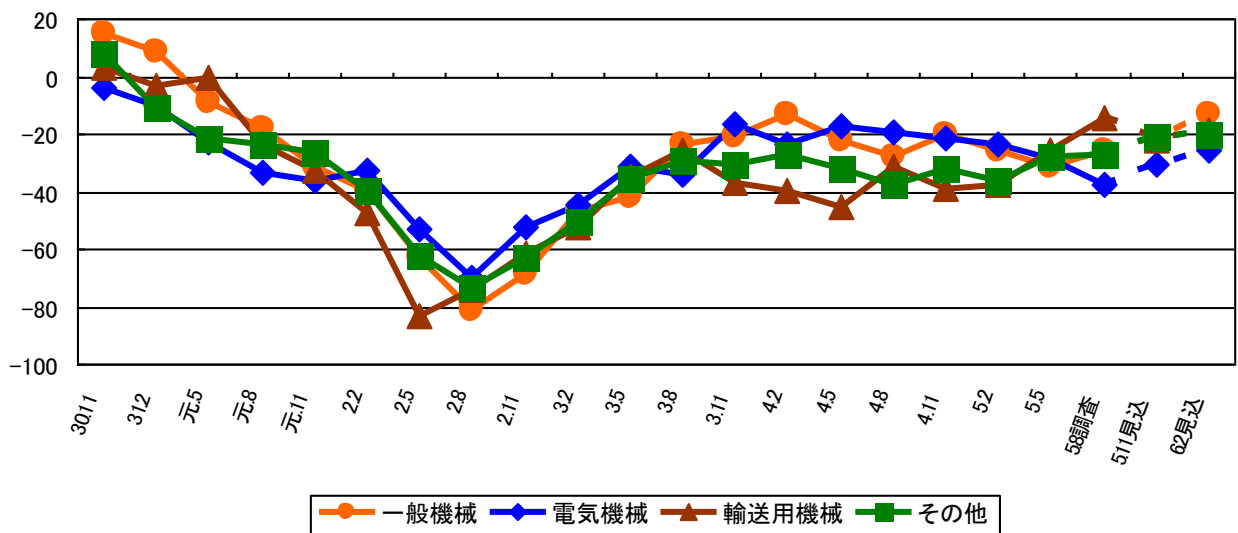
売上DIの推移



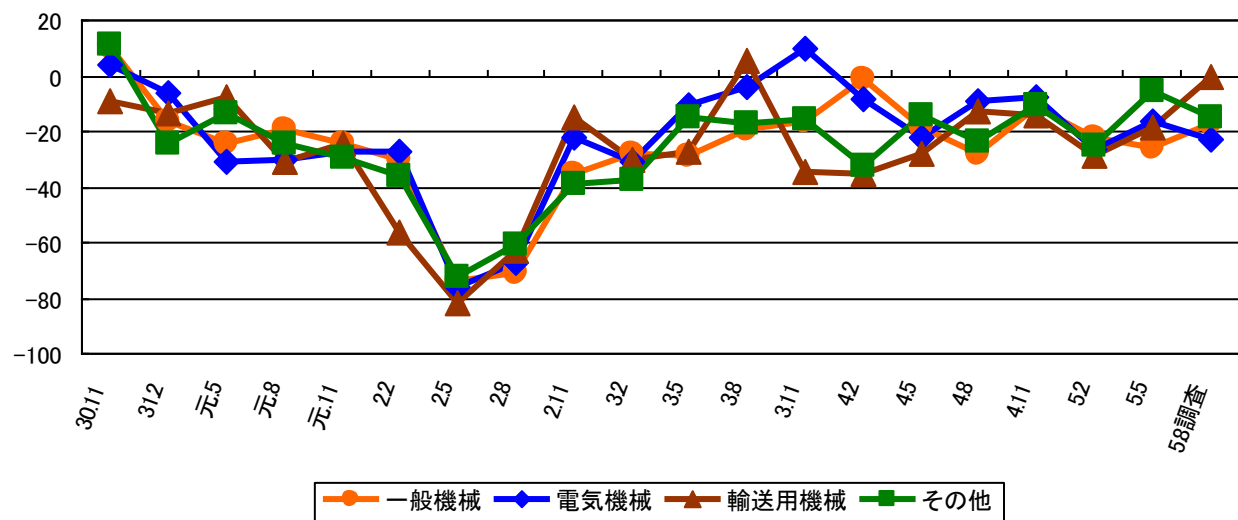
採算DIの推移



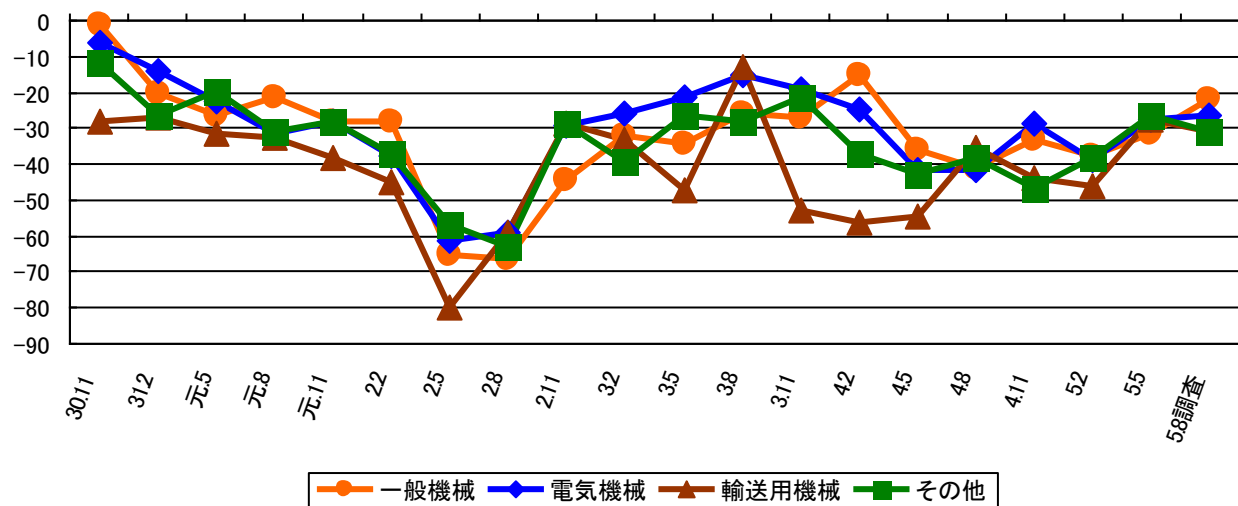
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「原材料費、ユーティリティコストの上昇、高止まりがボディーブローのように採算に影響している。更にインボイス制度の実施に伴うインボイス不採用の当社に対する取引先からの値下げ圧力や取引減少が懸念されます。」
「仕入は高くなり、工場維持費等も値上がりしてきているが、売上金額は現状のままのものが多い状況。」
「中国向け部品の低迷により、伸び悩み。」
「自動車関連のお客様の生産がコロナ前に戻って来ている。」
「電気自動車の伸長及び、ロシア向け中古車輸出の規制拡大の影響で、今後、業績見通しは厳しくなる。」
「7月～8月と暑さが厳しく売上減少。今後の業況では普通と考えているが、原材料、光熱費の高騰が続いた場合、悪くなる事も視野に入れている。」
「コロナ禍で需要が減少したまま戻る気配はない。」
「半導体業界において在庫調整局面が終息しつつあり、オーダーが増えています。」
「コロナ自粛後の産業構造の新たな変革で、当社既存事業の継続性の不安と、新規分野参入への期待が、今後顕著になってくると思われる。」
「海洋資源開発に、国家プロジェクト機能していない。」
「円安の影響を受けて赤字長期化。値上げ交渉が成功すれば採算改善見込み。」
「インバウンドが増えただけで、国内(日本人)需要は減少している。」
「仕入価格の上昇に受注単価が追い付かない。」
「新製品を作るための金型が少ないため、下請け同士の取り合いになっている。仕事量を確保するため、赤字受注になっている。古い金型の修理に費用が掛かって製作した金型屋が廃業等のため、我々への依頼が増えている。」
「IT、DXに関する知識をもっとつけなければ、今後の経営に影響が出る。現場との人材の配分が難しい。人材育成が鍵である。」

<建設業>

「人手不足で受注機会を逃がしている。人材確保は絶対だが、応募者が少ない。建設業は完全週休2日にならない(土曜日が閉所にならない)為、官民全て閉所にする法改正を求む。」
「調査回答企業からのコメントにあるように人手不足で募集しても人が集まらない。仕事はあるが、人手不足により手が出せない。」
「同業他社の人手不足から弊社にも取引の少ないお客様から引合が増えてる感じ。」
「資材の値上げに受注単価が伴っていない。」
「人手不足のうえ、賃金3%のベースアップ、インフラ手当支給と人件費の高騰が続いているので、先行き厳しい状況が続く。」
「民間工事は順調に受注出来ている。酷暑による生産性の低下。」
「夏場は当社の閑散期にあたるため、繁忙期の秋は、好業績となる見込み。」
「4月からの入札が取れなかった為、売上げが落ちた。」
「人手不足で募集しても応募もない状況。」
「高齢化・人材不足が強く業績に影響を与えている。施工会社なのでDX化にも限度があり、今後の見通しも業界自体の仕事量は多くても、暗いように思える。」

<卸売業>

「仕入、販売共に高値安定から、弱含みへと変化しています。原因は、需要の減退によるものなので、先行きには不安があります。」
「政府の政策など不在。」
「景気が悪い。今後の消費が伸び、設備投資に期待する。」
「非金属製品、工業用金属製品は横ばい(電子部品メーカー向け)。電球からLED化によるダウン傾向。故に少しずつダウン。」
「過去3年間に比べかなり上向きの状況になってきました。新規のお客様も増えております。このまま改善されていくればと思います。」
「売上高は変わらないが、仕入価格が高くなっているため利益率が悪くなっている。今後も仕入価格が高くなっていくので、採算は良くない。」
「仕入先での欠品増加により機会損失が増加している。コロナ対応からの脱却の遅れと、製造原価の高騰が原因との事。」
「大手工場との競合が更に激化が進み、零細工場の対応競争力は、後退せざるを得ない。」

調査回答企業からのコメント(一部)

<小売業>

「6月の売上は前年比増であり、コロナの影響も収まり、少し上向きになったが、気温の上昇で商店街の来店数が減少し、売上も減少。」
「7、8月の猛暑による客足の減少。コロナ禍による社会全体の不況。また物価高による購買意欲の減少。上向きの要素が何も見当たらない。」
「処理水の影響から乾き物が売れなくなった（アジア）がその分物品が売れているような気がします。アジア以外にもコンスタントに来ているので中国に頼る時代は終わったのかもかもしれません。」
「天候と遊漁船が魚不良のため。」
「少し戻ってきていた感が、7月頃までありましたが、8月の猛暑で客足が途絶えてしまい、今後の見通しが立ちません。」
「ネット販売が、コロナ前に比べて低調。商品の値上がりが影響している。」
「7月、8月の異常高温暑さにより人通りが全くない。路面店、商店街は厳しい。少しでも涼しくなれば、人通りも増、売上増が期待できる。」
「酒・タバコの節約されるお客様が増えている様に思う。」
「インボイス関連の準備に掛かる時間や費用が予想以上で大変。業務（人材不足にも関わらず）の谷間で行っていて、負担に辟易している。」
「消費が弱い。価格競争が激しく、利益確保が難しい。」
「新型コロナの行動規制が無くなり、以前の業績に戻ることを期待されます。懸念は、止まらない材料原価の高騰と、賃金上昇圧力ですが、値上げが容認される風潮なので、適正に転嫁出来るようにしたいと思っています。」
「売り上げがコロナ前より戻っている。10月からインボイス制度が開始となるが、弊社のお客様は個人経営が多く、事務的対応が難しいので、閉店が相次ぎそうだ。（高齢化もありますが。）未だ想像がつかない。」
「スーパー、ディスカウント、コンビニさん等にはかないません。あと5年位で小売店はなくなるのではないのでしょうか。」

<飲食店>

「コロナが5類になり、少しずつお客様が戻ってきているように感じています。これからですね。」
「アルバイト不足に困っています。人手不足でお店がうまく回っていません。」
「宴会需要がない。」
「これ以上仕入価格が上がるととても厳しい。利益が出ないですが、客数は確実に増えています。」
「売上は少しずつ増えていますが、肉の仕入が高騰し、赤字となっています。商品単価を見直し、値上げすると来店客が来なくなるので、上げられず赤字となる。近隣が値上げせず営業しているので、ここは頑張ってみようしかない。」
「この夏の暑さとお客の高齢化で来店数は少なく、従業員も高齢化で営業が思うようになりません。今後は、貸店舗も考えています。」
「最低賃金を上げるのは良いが103万の壁で、もっとスタッフ不足になる。」
「売上の7割を占めていた社用の宴会が減った。」
「物価高（特にTAKEOUT容器等の高騰）や人件費増が不安材料。」
「近隣の店舗が減っている。不安。」
「コロナが治まり、今は反動的に人が動いている感があります。今後、政府の動き次第で、人々がどう感じ動くかによって変わってくると思う。」

<サービス業>

「主力の大手取引先の値上げが認められるかにかかっている。この30年近く値上げが認められていない。」
「秋に最賃が大幅に上がる見通しですぐには価格転嫁できないので、収益性は悪化する見込み。」
「ガソリン高騰、物価も高騰し、経費がかさむ。また、物価上昇により、従業員給与も増加させなくては、生活が厳しくなるものが出るので、全体的に人件費もUPさせている。」
「インバウンドは好調だが、日本人観光客の戻りが悪い。」
「大幅な最低賃金の上昇が見込まれ、人件費を売上に転嫁出来るか不安。」
「コロナが明けたものの物価高やガソリン高で消費が落ちているように見える。物価高に対し、価格転嫁ができない。」
「物価上昇による経費の増大や人件費の上昇に対して、行政からの報酬額は不変のまま。若干の補助金は用意されているが、非常に少なく制度も使用しづらい。」
「ソフトウェア業なので、技術者提供も行なっているが、中途採用での人材確保において、現在技術者転職の動きも低下しており、なかなか採用出来ない。伴い業績が上がらない。また、客単価は少し上げられたが、それ以上に人件費で給与や交通費等の経費も上がっているため、利益は下がっている。」
「予定売上をやや下回る調子で、継続的に推移。」